

紙カルテから電子カルテへの移行を
スタッフにストレスを与えることなく可能としたシステム「STELLAR」



外科 杉谷篤先生

導入経緯

医師や看護師の負担軽減を目指して
紙カルテから電子カルテへの移行を検討

当院は設立から40年に渡って紙カルテを運用していましたが、施設の老朽化と新病院の建設・開院を機に電子カルテへの移行を決めました。オーダリングを飛び越えて、いきなり最新の電子カルテ導入ということで、まずは「委員会」を立ち上げ自分たちの現状の把握に努めました。

当院では、オーダリング、カルテ記載、検査結果報告も基本的には紙カルテでの運用であり、各部門では異なる時期に別個に購入可能なシステムを導入していました。結果として、受付・会計から看護支援、放射線科の画像管理、内視鏡検査と検査結果、病歴管理、がん登録から診断書作成に至るまで、多種多様なメーカーのシステムでばらばらに運用されることになりました。そのため、システムの統合管理も視野に入れて考えることになり、「電子カルテ」とともに「統合支援システム」を導入することに決めました。

システム選定のポイントとなったのは以下の4つです。

- ① 電子カルテの基本機能と時系列で検査結果、所見、画像が参照可能なこと。
- ② 別個に購入していた既存の機器やシステムと接続できること。
- ③ 新規購入予定の機器にも対応していること。
- ④ 医師や看護師の診療領域の負担を軽減すること。

各ベンダーの相性、統合支援システムを比較しましたが、アストロステージ社のシステムは新規導入を行う電子カルテとの相性、連携が良好で、レポート作成もカスタマイズでき、拡張性・発展性に優れていました。さらに5年間の維持費も含めて低コストであったのも選定理由の一つです。

導入システム

DICOM 画像管理システム	Nazca
DICOM 変換ツール	TransferTool
診療情報統合システム	STELLAR
ドキュメント作成&管理システム	STELLARReport
地域連携システム	STELLAR NET
画像キャプチャシステム	ARKGate

導入効果

低コストで理想的な業務のシステム化が実現

医師、看護師、技師、医師補助員、医事課職員ごとに権限は変えていますが、診察画面を開くと、電子カルテと統合支援が2面のモニターで開き、病名、処方歴、検査結果、放射線画像、スキャン画像、レポート、各文書を統合支援で参照しながら、電子カルテにオーダや記載ができる利便性があります。新規患者様が持ち込まれた検査画像のCDやフィルム、紹介状は受付から集中スキャンセンターで診察開始前にSTELLARに取り込まれており、診察時には画面上で見ることが出来ます。また、デジカメやiPadで撮影した手術画像から、褥瘡画像、検査室や病棟、外来など各所で撮影した超音波画像まで、全てSTELLARに取り込むことが可能となっています。手術記事、術中写真も過去データを引用しながら、作成、保存ができ非常に便利です。どの画像も、画質、操作性に至るまで問題はありません。

約1年を経過した現在、各端末はサクサクと稼働しており、全職員の満足度は高く、実際に紙カルテから電子カルテの導入によって、看護師の離職が増えるという現象も当院ではありませんでした。ペーパーレス・フィルムレスも可能となり、コストも安価で大変お得な導入を実現させていただきました。アストロステージ社には感謝しております。導入後の電話対応、調整、指導・教育も時々お願いしておりますが、満足のいく対応をしてもらっています。



医療情報部の皆さん



米子医療センター：システム導入時期 / Oct 2014



2012年4月、当院は築40年を超える病院で、紙カルテの運用でしたが、がん拠点病院としての「がん医療」と県内唯一の献腎移植施設で保存期腎不全から移植までを扱う「腎医療」を二つの柱として地域医療に貢献してきました。2014年7月、同じ敷地内に280床の新病院建設・開院すると同時に電子カルテの導入、院内外のネットワーク整備を行い、既存の機能に加えて、「緩和ケア病棟」の新設、健診システムの整備、地域連携システム、在宅医療の支援を推進する鳥取県西部医療圏の中核病院の一つとして生まれ変わりました。また、看護学校を併設しており、看護学生の教育、育成と、初期研修指定病院として、年間1-2名の初期研修医を受け入れています。

所在地：鳥取県米子市車尾4-17-1
 病床数：280床
 診療科：内科・糖尿病/代謝内科・腎臓内科・心療内科・精神科・神経内科・呼吸器内科
 消化器内科・血液腫瘍内科・循環器内科・心血管外科・小児科・外科
 整形外科・胸部血管外科・泌尿器科・婦人科・眼科・耳鼻咽喉科
 リハビリテーション科・放射線科・歯科/口腔外科・麻酔科・緩和ケア内科
 感染症内科・肝臓内科

今後の方針

当院は、がん拠点病院としての「がん医療」と県内唯一の献腎移植施設で保存期腎不全から移植までを扱う「腎医療」を二つの柱としています。「緩和ケア病棟」の新設、健診システムの整備、地域連携システム、在宅医療の支援を推進する鳥取県西部医療圏の中核病院の一つとして地域医療に貢献できるように努めます。

今後の期待・要望

当院の診療システムは、電子カルテとアストロステージ社のおかげで、全職員が働きやすく、患者さんの診療に貢献できるシステムが整備できました。当初掲げた利便性、拡張性、低コスト維持は実感しています。今後は、当院独自の地域連携システム、鳥取大学主導の「おしどりネット」、国立病院機構主導の連携システムの3つを扱う地域連携システムの整備と、データの二次利用、解析の向上に向けてのシステム整備の2点について、ご指導、ご助言をいただきたいと思えます。

システム構成図

